KAIKE PRESS

皆生温泉のこれからを伝えるメディア
「カイケプレス」

2024 Feb. 23

第23号／令和6年2月発行

小西 正剛
カイケエリアデザインスクールへの参加をきっかけにカイケラボへ参画しぐるぐるかいけチームへ。地域の子供たち、親御さんたちにもっと皆生の良さを知ってもらいたいと取り組んでいる。

森田 悟史
2021年10月に、四条通りで「パーキングデー」を米子市で初めて開催。取り組みは、ぐるぐるかいけの土台となった。以降カイケラボへ参画し、継続してぐるぐるかいけを企画・運営している。

前島　秀
初回のぐるぐるかいけには来場者として遊びに訪れ、皆生の持つポテンシャルの高さやおもしろさを感じる。カイケエリアデザインスクールを経てカイケラボへ参画。以降、ぐるぐるかいけの企画・運営に携わる。

特集

「地域のみんなで、楽しみながらまちを変えていきたい」

ぐるぐるかいけの今後から考える、皆生温泉のまちづくり

akippa
予約で確実！便利!!
エリア内100台以上!!!
皆生温泉で遊ぶなら駐車場はアキッパ!!
〈広告募集中〉このスペースでお店や会社のPRしませんか　毎月4,000部発行

皆生温泉エリアの公園や松林、空き地などに飲食やワークショップなど様々な屋台が登場し、近所の方々や市内外から訪れた方々、ぶらぶらと街歩きしながら、皆生温泉の魅力を再発見する『うごくまち　ぐるぐるかいけ』。2022年3月にスタートし、間もなく3年目を迎えます。2023年10月には、日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞に選ばれるなど、ぐるぐるかいけは皆生温泉を知ってもらう新たな〈入り口〉になっています。企画・運営を行うカイケラボ内の『ぐるぐるかいけチーム』に想いや、今後の展望などを訊きました。

普段は人通りの少ない公園や通りに屋台が立ち並び、
豊かなひと時が過ごせるよう演出

森田「皆生温泉の観光客が減ってきて、どうしていこうと考える中で、やっぱり普段から地元の人が来て、楽しいまちにしないといけないという共通認識ができはじめました。そこで、普段あまり使われていない場所を有効活用しながら、にぎやかになったまちを一時的に実践してみる社会実験をすることになったんです。で、これが日常になったらいいな…と、想い描きながら、巡ってもらいたいという意味で『ぐるぐるかいけ』と名付けました」

歩行者天国を実践してみて生まれるにぎわいや
問題点を探る取り組みも

そう語るのは最初期の企画から、ずっと携わり続けている森田さん。温泉街からかつてのにぎわいが薄らいだ中、地域をどのように盛り上げていくか考える過程で「歩いて楽しい仕掛けづくり」のアイデアを様々な協力を得ながら組み上げていきました。松林や海岸遊歩道・四条通りなど、官民問わず、あらゆる場所で飲食・工作・音楽など様々な催しを開催。来場者は普段よりも賑やかなまちを思い思いに楽しみ、「こんなまちは楽しいな」とリアルに感じることができるのです。こうした活動は地域の方々や、ホテル・旅館の方々をはじめとする地元事業者のみなさんからも好評を得るようになってきました。

小西「ぐるぐるかいけを通して地元の方々とのつながりが生まれ、『楽しかった!!』『盛り上げてくれてありがとう』といった感謝の言葉をいただくこともあります」

カイケラボの取組を通じてぐるぐるかいけに関わるようになった小西さんは、そう嬉しそうに言いながらも、次に交わした言葉は＜一緒に盛り上げましょう＞だと言います。誰かだけが盛り上げるのではなく、一緒にやりたい、一緒にやるから続いていき、より良いものになる、そんな想いが感じられます。

森田「これまではわたしたちが企画から運営まで主になって、関係する地元の方々に協力をお願いして、イベント的に実践してきました。でも、わたしたちが目指したいのは、日常に落とし込んでいくこと。もっと地元の皆さんと、本当に一緒になって活動し、まちの景色を変えていくことが大切だと思っています。」

歩いて楽しく安全に過ごせるまちを目指して移動手段の実験も行っています

現実問題として、大きな規模のイベント実施などは、手間もコストもかかります。でも、これまでぐるぐるかいけを開催してきたことで、空き店舗に新たな出店が生まれたり、新たに皆生温泉のまちづくりに関わる人が登場したり、と様々な効果が出てきました。こうした成果を源に、これからのぐるぐるかいけでは、もっと日々の営みの中でもまちを賑やかにしていく取り組みも視野に入れているようです。

地域の子ども達が自ら考え出店してみる、そんな体験も生まれてきました

小西「そうですね。例えば普段から、おそろいののぼりをぐるぐるかいけ参加店舗が立てておく。それだけでも街全体で、何か取り組みをやっているという雰囲気は出ますよね。そういった、まちで取り組めることが増えていく〈入口〉でもあると思っています」

ぐるぐるかいけの取組は様々な方と連携してこそできるもの。
日々、米子市観光センターのみなさんや、皆生温泉旅館組合のみなさんともコミュニケーションをとっています。

特定の日に開催するイベントは「ハレの日」として集客が多く盛り上がります。それと同じようにとはいかなくても、少しずつでも日常になっていくためには、積み重ねることが大切なのでしょう。

前島「参加者から『皆生がおもしろいよね』『どんどんおもしろくなってる』と聞くと嬉しいです。それが積み重なって、皆生はおもしろいエリアだと思ってもらえることが大事だと思いますね。ゆっくりですが着実に進んでいるので、焦らず、これからはもっと地域のみんなで一体となって、皆生温泉の日常を豊かにしていけたらいいですよね!!」

「ゆっくり着実に進んでいるだけでもいいと思う」というのは、メンバーの率直な感想です。いきなり全てが変わり、うまくいくことは難しいですが、皆生温泉の街並みは徐々に変わっています。地域の皆さんと一緒に変化を楽しみながら、前進していきたい、それがぐるぐるかいけチームの、カイケラボの想いです。

メンバーの打ち合わせは、米子市観光センターや皆生温泉の街中などでしています。気軽にぐるぐるかいけへのご意見など、お声がけいただきたいです(^^♪

エリア経営だより

このコーナーでは、毎月の「皆生温泉エリア経営実行委員会」定例会の内容を一部お伝えしていきます!まだまだ未定のこぼれ話も楽しんでくださいませ!!

《　今回は2月7日(水)13:00から開催された定例会より　》

特報!! 1年の内で最大級!! 来なきゃソン
ぐるぐるかいけ開催
3/10［日］ 10:00〜15:00
詳しくはこちら

「まちなみデザイン検討業務」の進捗状況報告を行いました

エリア経営実行委員会や地元の方々と共に議論しながら、これから変わっていく温泉街の基本的なデザインの考え方を取りまとめた「皆生温泉エリアまちなみデザイン指針」の策定を進めています。この指針は、長期にわたって様々な主体が計画・設計・施工と進むうえで、いずれの段階でも、立ち戻るべきデザイン上の大原則になり、関係者が一丸となって未来に誇れる皆生温泉エリアを共に創り出すためのものです。その進捗について、エリア経営実行委員会アドバイザーであり、デザイン検討を進行していただいている株式会社設計領域さんから報告していただきました。

ワークショップなどで様々な方々の意見も入れていただいてきた『妄想模型』。こうした活動も基にデザインされていきます。

皆生温泉の温泉資源や地下水資源などについて勉強しました

皆生温泉のまちは、温泉・海浜・地下水などなど様々な自然資源の豊かな恵みを受けています。とはいえ、限りある資源は大切に使っていかなければなりません。この日は、皆生の温泉の配湯事業を行う皆生温泉観光株式会社の坂内和孝社長に、温泉の集中配湯が資源管理に有効であることや、日々、湯量をモニタリングしながら配湯事業をしていること、湯量は大山などから巡ってくる地下水量に深くかかわっていること、などなど様々なお話をいただきました。温泉資源を守っていくことは皆生温泉のまちにとって大事なだけでなく、様々な自然環境を大切にしていくことにつながっているのだと、とても多くのことを学ばせていただきました。

皆生温泉のまちなかで見かける温泉供給設備。ここにも資源を様々な工夫が、実はなされているんですよ。

きてみてカイケ

第3回ぺちゃくちゃかいけ

3月20日［水・祝］ 10:00ー12:00

会場：米子市観光センター
内容：巨大模型を見ながら皆生温泉を楽しくする意見交換会を予定しています!!だれでも飛び入り参加OK!ぜひぜひお越しください!!

令和5年度

皆生温泉エリア経営実行委員会活動報告会開催

3月20日［水・祝］ 13:00ー15:00

会場：米子市観光センター
内容：これまでの取組や今後の予定など様々お話しさせ頂きます!!
だれでも飛び入り参加OK!ぜひぜひお越しください!!
「現地見学会」15時〜（自由参加）これまで取り組んできた、まちの空間整備の積み重ねを、ご案内する見学会です!!

発行／カイケラボ　協力／日本海新聞皆生専売所

本紙に関するお問い合わせは、カイケラボ(kaikelab@gmail.com)まで